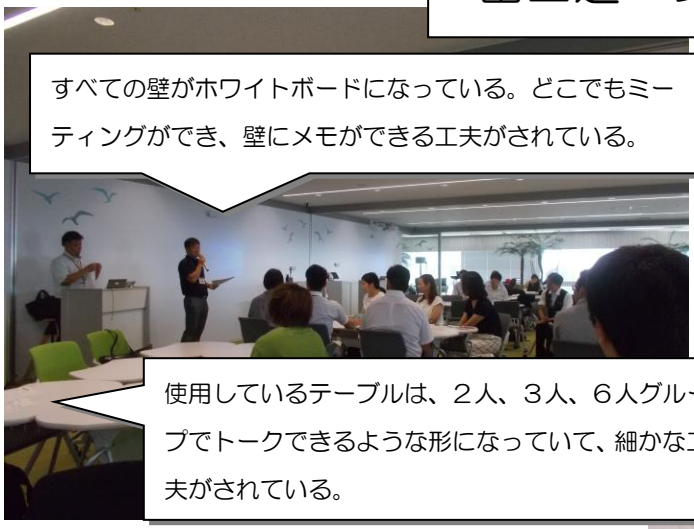
平成３０年８月２日

横浜市生活科・総合的な学習の時間研究会 夏季研修記録

研修の目的：
ライフスタイルが違う方々の話を聞いて刺激をもらい、教養人として人間力を磨き、自分なりに視野・世界を広げる。

●開会：会長挨拶、目的紹介、社内見学
●講演：①横浜市の課題とそれに向けた取組
②ローズプロジェクトの取り組み
③プログラミング教育
●ワークショップ研修

富士通エフサス社内見学



すべての壁がホワイトボードになっている。どこでもミーティングができ、壁にメモができる工夫がされている。

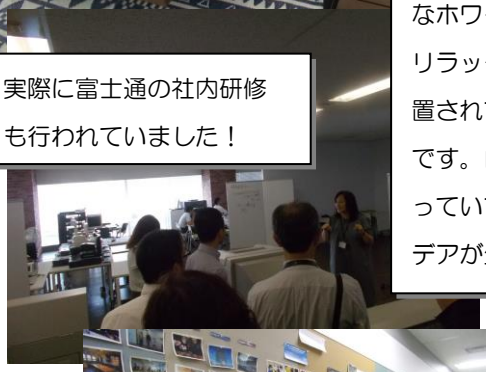
使用しているテーブルは、２人、３人、６人グループでトークできるような形になっていて、細かな工夫がされている。

ここは、新しいことをイノベーション、発想できる場。未来を考えるFuture Center。最近は、組織横断的な働き方改革の推進、地域、会社イノベーションに使われている。現在のテーマは、「西海岸風」。開放感のある環境を整えている。

電子ピアノもあり、研修施設とは思えない！

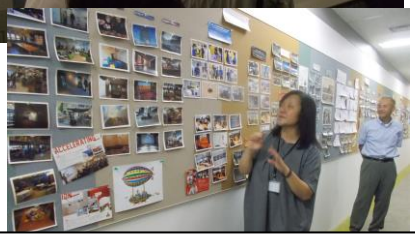
綺麗なみなとみらいの景色を見ながら、未来を考えることができる！

社内オフィス、研修施設といえば、机、椅子、大きなホワイトボードがある箱型の環境ですが、ここでは、リラックスできる素敵な机と椅子などが、意図的に設置されていて、今までに見たことのない研修センターです。自由な発想ができる、気分よく話せる環境が整っていて、こんな環境の中で、たくさんの多様なアイデアが生まれるのだろうと、みんな笑顔でした。



実際に富士通の社内研修も行われていました！

コーヒーブレイクができる。フリードリンクバー！



どんなイノベーションが起きているのか紹介！

タッチパネルで、必要な情報が閲覧できる！

入口から、ワクワクするホール！

講演①

「横浜市の課題とそれに向けた取組」横浜市政策局共創推進課　関口昌幸様

横浜市オープンイノベーション

現在横浜市では、「オープンイノベーション」を進めている。今までの経験や勘で仕事や物事を考えるのではなく、適切なデータを活用しながら、未来の横浜のまち作りに努めている。特に、「総合的に」を意識している。新しいテクノロジーやデータを活用して行政や教員だけではなく、多様な機関、セクターと一緒に取り組むことを大事にしている。このような取り組みで大切にしていることは、きちんとした根拠で考えていくこと。

データ①「今心配ごとはありますか。」

１９８０～９０は２人に１人は将来に心配ない。２０００～現在は１０人に９人は将来心配。

データ②「人口高齢化の構造化」

横浜市は高齢者が１００万人。２０２５年後期高齢者は６０万人になる予想。介護・ケアがより必要になる。仙台や福岡は３０代・４０代は周りの地域から人が集まり人口増加するが、横浜は来年から人口減少が始まり、高齢者は増加する予想。

データ③「女性の労働比率」

１９８０年代は、M 字カーブ傾向にあり、結婚後の地域活動や PTA 活動に参加する人が多い。共働きは約３０%。２０００年代は、M 字カーブが浅くなり、結婚後も仕事を辞めない共働きが多く、約４０%。

データ④「家族類型世帯」

１９８０年代頃から、３０・４０代の核家族化が始まる。２０００年代からは、単身者の割合が増え、３０・４０代の未婚率が進み始めた。８０年代１０人うち９人が既婚だが、現在は、１０人のうち６人が既婚、４人は未婚。

今までは核家族中心に政策を考えていたが、今は家族構成が多様化し、単身者も多い。人口は減少、単身者は増加傾向。高齢者も増加傾向。税収は減ると予想。自分たちで「自助」「共助」していくしかないのでは。地域活動する人が少なくなってきている。３０・４０代の人がいなく、７０代が中心になっている。しかも女性が少ない。単身者も増え後継者がいない。今までは、６０代がリタイアして地域活動をしていたが、最近は、６０・７０代がまだ働いている現状。学校現場は、困難をかかえている子どもが多いのではないか。福祉的になっていると、データ的に、人口構造的に予測する。だからこそ、オープンイノベーションをしている必要がある。

リビングラボ

「リビングラボ」は、生活者中心のものやまちづくりを目指し、暮らしを豊かなにするためのサービスやものを考えていくこと。欧米では４００ぐらいある。ポイントは、企業が入っていくこと。まちと行政が相互理解し、課題を発見し、アイデアを創出する。プロットタイピングからプロダクト製作し、ユーザーテストを繰り返し実行するラボの流れがある。特に、アイデア創出とプロットタイピングの過程で、より企業が入り進めていくことが大切。①企業マーケティング型：大企業がこの型を使っている。②地域包括ケア型：NPO、当事者、福祉サービスのグループがこの型を使っている。③都市再生型：空き家を活用し、地域の企業や団体に貸し出しまちビジネス化する。地域の工務店や不動産など地域企業がこの型を使っている。大企業や中小企業がタッグを組んで、地域経済を活性化することは、SDGｓとなっていくだろう。

講演②
「ローズプロジェクトの取組」株式会社ボヌール　ナカヤタエ様

バラですべての人とつながる

株式会社ボヌールとは、女性の相談窓口の支援を行っている地域企業。６月２日はローズの日。市花のバラを活性化させたいという思いから、ローズプロジェクトを立ち上げた。今までの課題は、無緑化（花）が進んでいること。社会問題となっている。情報がバラバラとなっていて、活性化するには難しい状況である。このプロジェクトを入り口として、人、もの、ことがつながるプロジェクトを進めることや、そこから生まれる新たな価値の創造を期待している。つまり、仲間を増やすことにもつながる。小学校では、「はまみらい」の大苗を育成している。バラ教育の草の根運動を進めている。また、はまみらいの折り紙の取り組みなどの生活科・総合的な学習の時間と連携した活動から、報酬以上の価値があることを感じ、自分自身がすべての方とつながることができる可能性に気づき、世界が一つになる喜びを実感した。学びの実践事例は、和泉小の取り組み。ローズティーをふるまう子どもたちを見て、バラを活用、応用できると感じた。これからは、社会参加を続け、市民の方と一緒にまちづくりを行い、バラの無限大の可能性をもっと広げていきたい。オリンピックでは、バラで、もてなす。おもてなしの気持ちができるように努めていきたい。

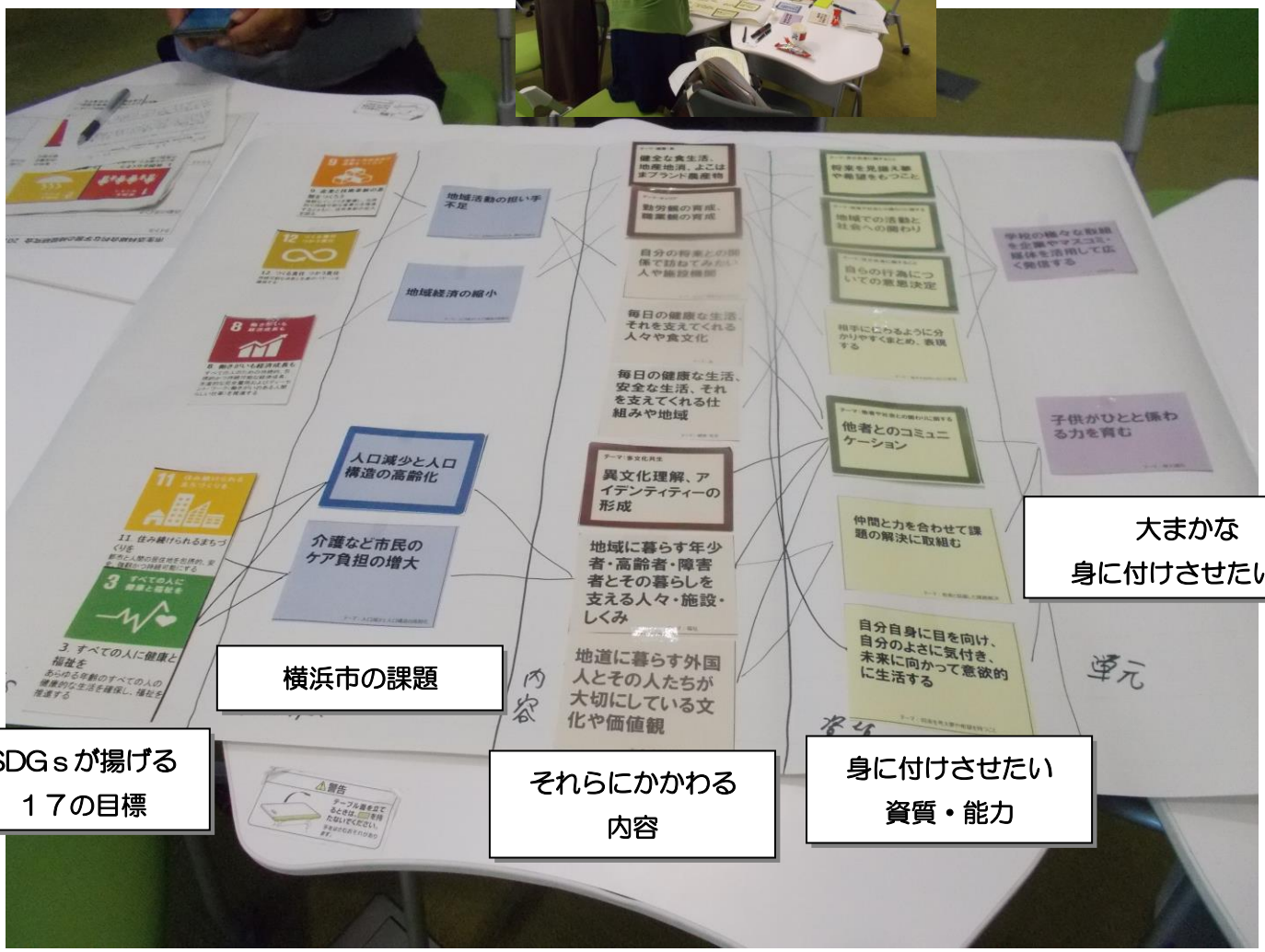
講演③
「プログラミング教育」iPhone　アプリ開発者　若宮正子様

創造性！論理的思考力！問題解決力！

スマホの「ひなだんアプリ」を開発した。アプリは、たし算やかけ算がよくできなくてもプログラミングができ、誰でも作れる。自分で考え自分で作り出していく面白さや、自分の思い通りに動く楽しさがある。プログラミングは、自分の世界を作りだすことができる。創造性と手順通り運ぶことを大切にして創るプログラミングの喜びは、脳を活性化させる。昔は、プログラミングといえば、コーディングしていき、長い時間と労力がかかることであった。今は作り方が多様化し誰でもできるようになっている。アプリは、身近な疑問や課題からうまれるものが多い。例えば、「イノシシ捕獲アプリ」。誰かのために作ることが多く、アプリ甲子園という大会がある。「はいかいするおじいちゃんアプリ」を作成した子どもがいる。彼は、パソコンのスキルより、おじいちゃんの、はいかいする現場をよく知っており、その課題を解決するためのアプリを考えた。身近な人のニーズをもとにしたアプリが多くあり、より生活実態から生まれる。岐阜工業高校、盲学校のアプリ開発の取り組みもとても素晴らしい。なぜプログラミングを学ぶのかと、よく聞かれるが、大人は学校で学んでいないから心配や不安を感じている。親が学んでいないことをやるのが不安である。プログラミングで学べるのは、創造性、論理的思考力、問題解決力である。論理的思考力は、世界共通語である。論理的とは、正しいという前提がある。ないと情で流される。創造性は、人間でしかできないものを追究できる。お手本通りに作れるだけではだめ。プログラミングは、創造性を育てる画期的なもの。自分で作ることをけなさないでほしい。問題解決力は、一つ一つ手順を追って考える力である。シニアから始めるプログラミングもあり、自分の頑張りをたくさんの方に伝えていきたい。

④ワークショップ研修
「横浜の時間と SDGs」
富士通エフサス　岸本伴恵様

子どもたちが世界を変える



大まかな
身に付けさせたい力

横浜市の課題

SDGｓが揚げる
１７の目標

それらにかかわる
内容

身に付けさせたい
資質・能力

５種類の活動アイデア発想カードを使って、授業作りにかかわるアクティビティ研修。上記写真右から、大まかな身に付けさせたい力（自分たちのクラスや学校の実態から）を考え、資質・能力→内容→市の課題→SDGｓの１７の目標と順番に左にカードを貼って考えていきました。自分たちがクラスで取り組んでいる活動が、横浜市の課題とつながり、SDGｓともつながることに気付き、生活科・総合的な学習の時間の価値を再認識することができました。

素敵な場所で、素敵な仲間と、

横浜の未来や、子どもたちのことを、

じっくりと考えることができた

最高の夏季研修でした！